

# なしの黒星病対策に

果樹用殺菌剤

# デラン<sup>®</sup>フロアブル

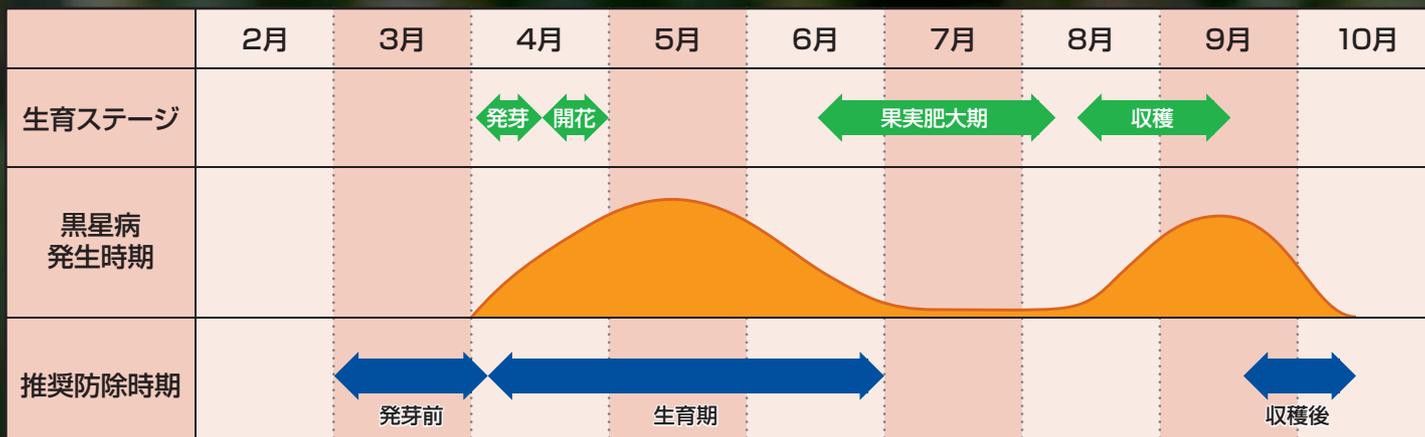


被害果



被害葉

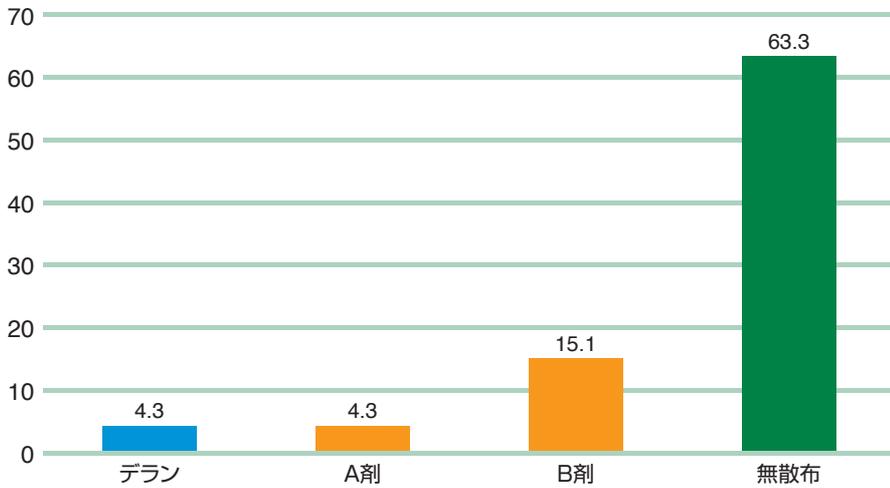
## ◆黒星病の発生活消長(模式図)



# なし／黒星病に対する効果

## 生育期防除例

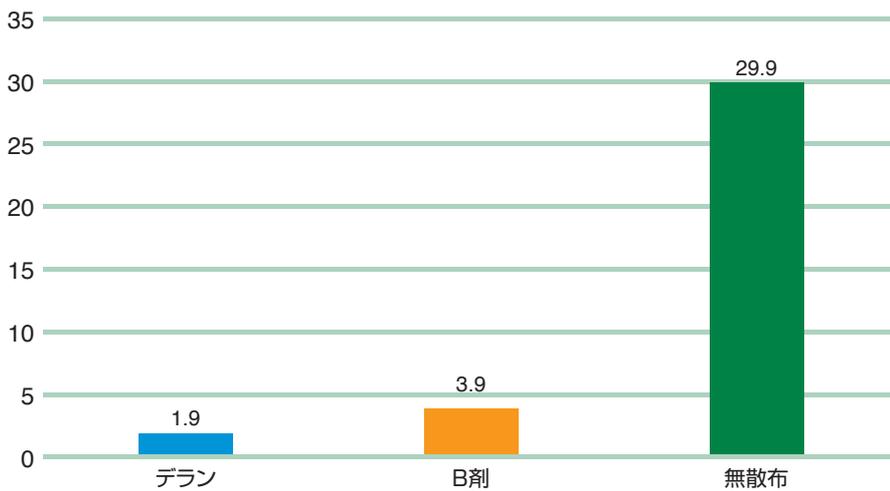
【発病葉率(%)】



<試験方法概要>

試験年次: 平成2年  
試験場所: 長野南信農試 長野県高森町  
品 種: 幸水 22年生  
試験規模: 1区 1樹 2連制  
試験薬剤: デランフロアブル 1000倍  
A剤 1500倍  
B剤 800倍  
散布水量: 15ℓ/樹  
散 布 日: 4月14日、4月25日、5月7日、  
5月16日、5月25日、6月8日  
調 査 日: 6月14日

【発病葉率(%)】

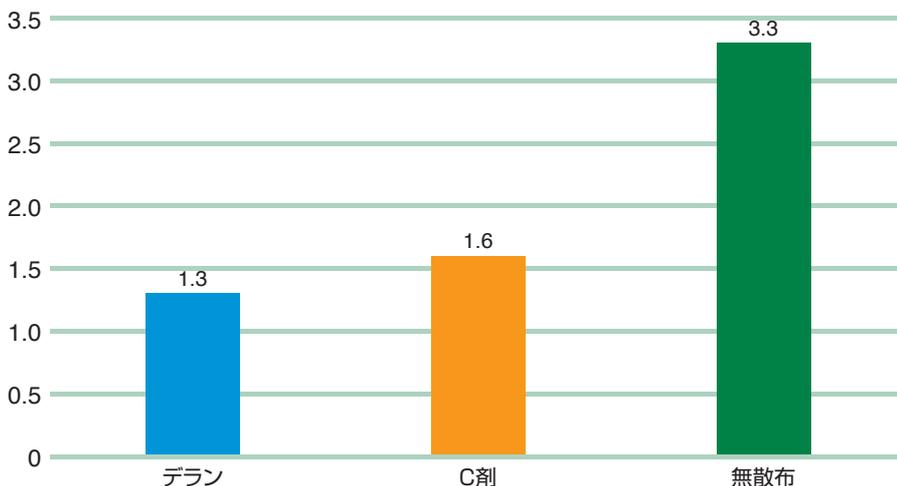


<試験方法概要>

試験年次: 平成2年  
試験場所: 三重農技セ 三重県嬉野町  
品 種: 長十郎 10年生  
試験規模: 1区 1樹 3連制  
試験薬剤: デランフロアブル 1000倍  
B剤 800倍  
散 布 日: 4月24日、5月2日、5月9日、  
5月18日、5月28日  
調 査 日: 6月28日

## 収穫後防除例

【発病果そう基部率(%)】



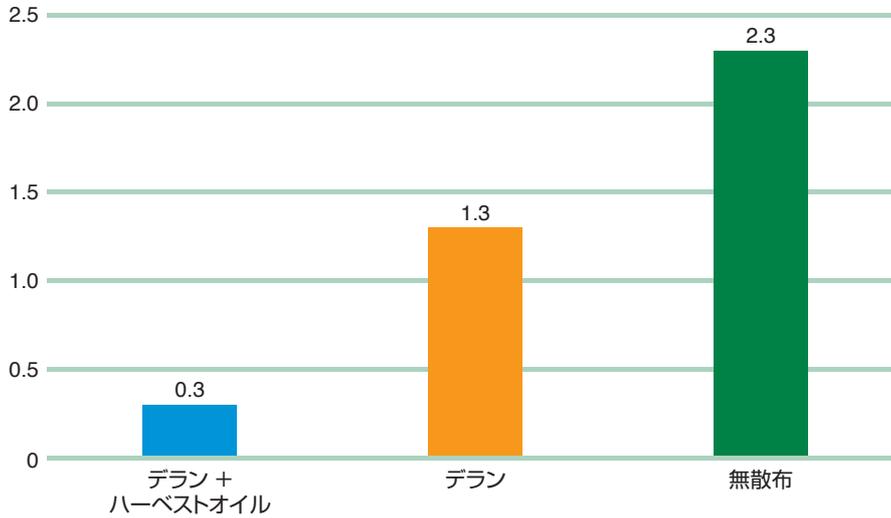
<試験方法概要>

試験年次: 平成11年  
試験場所: 茨城農総セ 茨城県岩間町  
品 種: 幸水 11年生  
試験規模: 1区 1樹 3連制  
試験薬剤: デランフロアブル 1000倍  
C剤 500倍  
散布水量: 300ℓ/10a  
散 布 日: 9月28日、10月21日  
調 査 日: 5月15日

# なし／黒星病 デランフロアブル+マシン油剤 発芽前散布による防除について

## 発芽前防除例

【発病葉率(%)】



<試験方法概要>

試験年次：平成28年

試験場所：佐賀県 佐賀県小城市

品 種：幸水 11年生

試験規模：1区 1樹 3反復

試験薬剤：デランフロアブル 1000倍+  
ハーベストオイル100倍、  
デランフロアブル 1000倍

散布水量：10ℓ/樹

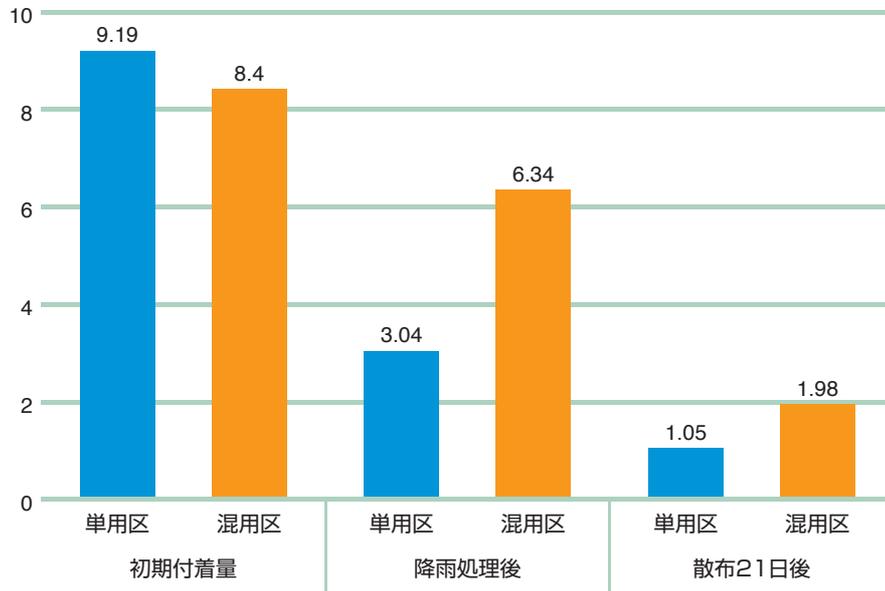
散布日：3月2日(発芽前)その後は慣行防除

調査日：6月1日

**デランフロアブル+マシン油剤  
の混用散布で、黒星病の発生  
が少ない傾向となった。**

## 残留分析による耐雨性・残効性比較データ

【ジチアノン抽出量(μg/g)】



<試験方法概要>

試験年次：平成28年

試験場所：田原研究所 愛知県田原市

品 種：幸水

試験規模：1区 2樹 (1条件6枝/長さ10cm)

試験薬剤：デランフロアブル、ハーベストオイル

散布日：3月3日(発芽前)

調査日：初期付着量:散布1日後

耐雨性評価:散布1日後に枝をサンプリングし、  
人工降雨処理を実施

残効性評価:散布21日後

人工降雨処理：200mm(50mm/時間×

4時間)

抽出方法：溶液浸漬抽出および超音波抽出に

**マシン油剤の混用によって、  
耐雨性、残効性が向上する  
可能性が示唆された。**

## 混用物性試験結果

薬剤	判定
クミアイ機械油乳剤95	●
クミアイアタックオイル	●
トモノールS	●
ハーベストオイル	●

<試験方法概要>

試験年次：平成26年

試験場所：田原研究所 愛知県田原市

調査日：12月4日、5日

●：混用可

◎：直前混用可

○：凝集するが攪拌すれば散布に問題なし

×：混用不可

**供試したマシン油剤との混用で沈殿等は  
見られなかった。**

● **発芽後のマシン油剤との混用散布による薬害事例**



<試験方法概要>  
散布日：3月31日（りんぼう脱落后）  
調査日：4月6日、4月16日  
症 状：花卉、果房に焼け症状

**発芽後にデランフロアブル+マシン油剤の混用散布をしますと薬害のリスクがありますので、発芽後の混用散布は避けてください。**

■ **適用病害と使用方法**

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジチアノンを含む農薬の総使用回数
なし	黒星病・黒斑病・輪紋病・赤星病 疫病・炭疽病・心腐れ症(胴枯病菌) 黒斑細菌病	1000倍	200~700 ℓ/10a	収穫60日前まで	4回以内	散布	5回以内

⚠ **効果・薬害等の注意**

- 本剤は分離を防止するため、静置時は粘度が高く、振れば容易に粘度が下がるように処方されているので、必ず振ってから使用してください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけてください。
- かんきつに使用する場合は次のことに注意してください。
  - 1)開花期以降のマシン油剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。また開花期以降に本剤を使用する場合は、マシン油剤との散布間隔を30日程度あけてください。
  - 2)夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
  - 3)炭疽病(さび果)に使用する場合は、感染期に約1ヵ月の間隔で発病前に予防的に散布してください。
  - 4)収穫後長期間貯蔵する中晩柑に使用する場合は、貯蔵中、果皮に斑点が発生することがあるので、散布をさけてください。
- りんごのモニリヤ病に使用する場合、多発条件下では所定希釈倍数内の高濃度で使用してください。
- ハウス栽培のなしに対しては、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 機能性展着剤(アプローチBIなど)の加用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ぶどうの黒とう病に使用する場合は、発芽前~新梢伸長期に予防的に散布するのが効果的です。ただし新梢伸長期の散布は葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- いちごおよびせんにょうに使用する場合は、新葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 蛭に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。

⚠ **安全使用上の注意**

- 医薬用外劇物。取扱には十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
  - 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
  - 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
  - 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするともに衣服の交換をしてください。
  - 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
  - かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
  - 夏期高温時の使用をさけてください。
  - 施設内で使用する場合は、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ってください。
  - 街路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
  - 魚毒性**：水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
  - 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保 管**：直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管してください。

本資料の記載内容は2020年6月現在のものです。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ●防除日誌を記載しましょう。